



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 60

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 60. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1957, 60: 29-34

ISSUE DATE:

1957-09-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186807>

RIGHT:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興會

## 水族館月報

No. 60

1957. 8月 (9月5日)

### 録 事

8月3-4日開催予定のアクアラング技術講習会は、かねてより近傍各地の漁協にポスター、案内状等を配布して参加者を募集中であつたが、開期までにわずか2名の申込者があつたのみで低調をきわめたので、残念ながら今回はこの行事を取り止めた。

8月16日宮地会長、生駒監事、山本京太技術課長が来所され、かねてより計画中の水族館の改築計画、取調宿舍建築のための設計案につき所員と討議、一応の成案を得て、翌日帰学された。

8月9-16日、20-31日の両度にわたり、UNESCO国内委員会委託の第二次田辺湾海洋調査が実施され、京都大学地球物理学教授の速水頌一郎教授、堀尾義昭助手、他大学院学生3名及び大阪学芸大学中村秋南助教授他学生4名参加、実験所側も之に協力して昨年度調査の欠きを充足し、ほぼ予定通り順調な作業が続けられた。なお別に先月22日より滞在中の東北大学教養学部三位秀夫助手により1ヶ月余にわたり田辺湾周辺海岸の地質調査が実施され、同氏は29日退出した。

8月18-20日にかけて西日本を襲った台風7号の影響で、波浪激しく、遂に海水取入口に直結するB配水管のまわりの拾石が殆んど流失し、その鉛管の一部が約5mの長さになつて屈曲欠損の結果、ひきちぎれて失つた。海水は一時も流通を止めることができないので、直ちに鉛管を大阪よりとりよせ応急修理を施したが実験所開設以来長きにわたる配水系の不備が台風の度毎に甚大な被害をもたらすので、これを元通りに復旧することは徒らに災害を加えるようなものであるから、根本的に改修して配水管をもっと深くし、その上に完全な保護施設を施すことが強く要請される。

臨海浦の砂防護岸工事は7-8両月にわたり広本組によって施工され、延長37.70m、高さ3mの頑丈な石護岸と、山麓に延長22mの排水溝が月末までに完成した。

砂防の方はこれで完全になったがその上にこの春3月植えた防風用の黒松苗400本が夏中の心ないキャンプ客や砂防工事のため踏みたかれて、すっかり台無しになってしまった。

先月21日より始まった納涼バスは3旧を以て終了した。この間これを利用した夜間入場者数は総計701名（内無料入場者 81名）で昨年よりも少なかった。

本会創立以来、会計事務を担当した事務取調中谷寿代夫人は、8月31日付で家庭の事情により退任された。両り年間の勤続の労をねぎらって、同日白浜観光ホテルで盛大な送別会を催した。

中谷夫人の後任として田辺高枝昭和32年卒の渡瀬美佐代嬢を採用し、26日より業務見習のため出勤を命じた。

## 業 務 概 況

### ◎ 8月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	7159	39982	16512	82079	23671	122061
小 人	2136	4546	2140	3405	4276	7951
団 体	6303	62812	—	—	6303	62812
合 計	15598	107340	18652	85484	34250	192824
無料入場者	明光バスKK社買他				106	1072

団 体：一般 61組、学 生 36組 計 97組

### ◎ 8月の事業収入

		(今年度累計)
観覧券売上金	606,110	3,511,500
予金積立金利息	30,000	405,000
雑 収 入	265	960
魚 類 拂 下	—	17,300
計	636,375	3,934,760

◎ 8月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	61,127	364,997	
会 議 費	1,185	67,088	
備 品 費	4,000	24,400	往時計
消 耗 費	7,789	55,939	
車 業 費	31,243	252,510	
雑 費	31,467	97,507	配水管修理用鉛管9 ㍓ 全修理
其他諸経費	3,137	47,374	
積 立 金	123,719	714,783	
合 計	263,667	1,624,598	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	30,000	
奨 学 金	8,000	33,000	
備 品 費	—	145,549	
消 耗 費	—	600	
刊 行 費	215,575	215,575	Publ.vol.6, no.1. 印刷
役 務 費	—	130,000	
合 計	223,575	554,724	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	18,400	84,370	
備 品 費	—	264,520	
消 耗 費	—	6,530	
役 務 費	—	7,010	
合 計	18,400	362,430	

臨時費

支 出 な し

支出合計	(今年度累計)
水族館経費	263,667 ..... 1,624,598
実験所経費	223,575 ..... 554,724
博物館経費	18,400 ..... 362,430
臨時費	— ..... 59,940
計	505,642 ..... 2,601,692

◎ 8月末現在高

前月からの繰越	3,518,447
今月の収入合計	636,375
今月の支出合計	505,642
現在高	3,649,180

◎ 前年度との比較

	1956	1957	増	減
入場者数	32043	34250	+	2207
売上金	571811	606110	+	34299
支出金	305722	505642	+	199920

## 水族館記事

- ◎ 8月は台風の影響もあって魚類の購入は思わしくなかったが、二三珍しいものを入手した。
- ◎ 4日 ウミテンクが1匹入槽し、月末にいたるも元気である。
- ◎ 17日 クマノミ1匹入槽。棲家とするサンゴイソギンチャクが取れるとよいのだが、未だに採取できないでいる。
- ◎ 2日 イザリウオ1匹死亡し、25日 新しい1匹を入手。
- ◎ 10日 カブトガニ1匹、オオセ(この春お産したもの)1匹死亡。
- ◎ 17日 エビスダイ1匹死亡。
- ◎ 21日 アカウミガメの仔22匹を購入、翌22日と30日各1匹いたずらな客に持ち去られてしまった。

- ◎ 21日 イタチウオ, シマイセエビ各1匹死亡。
- ◎ 26日, 28日 コバンザメ各1匹入槽。
- ◎ 28日 アミモンガラに似た不明の美しい熱帯魚が1匹入槽。
- ◎ 月ホにマダイの水槽に菌がはびこり、眼が白くなり、体表がおかされはじめたが、メチレンブルーで治療した。

## 博物館記事

- ◎ 博物館の補強修理は大むね夏中におわり流しの修理も完了したが、配電工事が一部残された。

## 資 料

- ◎ 8月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(24)	8	6	10
気 温 (℃)	$\frac{26.9 \sim 28.4}{26.7}$	$\frac{26.4 \sim 27.5}{27.0}$	$\frac{21.3 \sim 22.8}{22.3}$
水 温 (℃)	$\frac{26.9 \sim 28.9}{27.7}$	$\frac{26.9 \sim 27.6}{27.2}$	$\frac{20.3 \sim 22.8}{21.9}$
比 重	$\frac{25.9 \sim 28.7}{27.5}$	$\frac{27.0 \sim 28.1}{27.4}$	$\frac{19.4 \sim 21.9}{21.1}$

但し { 気温は南水槽  
水温 } で9時測定  
比重 } No.25水槽

## 来 訪 録

- 8月5-6日 フロリダ州立大学タラハッサー臨海実験所の助教授 Dr. Alan J. Kohn がエール大学セイシェル島探検調査の途次立ち寄る。
- 8月8日 ペルー国リマ市の貝類蒐集家 Albert Schwarg 氏来所。
- 8月13日 9月始め当館で開催予定の水族館関係技術者のための臨海講習会の打合せに日本動物園水族館協会幹事平与三松堺水族館長来館。

昭和32年9月5日

(No.60)

編纂兼  
発行者

内海 富士夫

発行所

瀬戸内海  
和可山  
瀬戸内  
美浜  
白浜  
温泉  
515